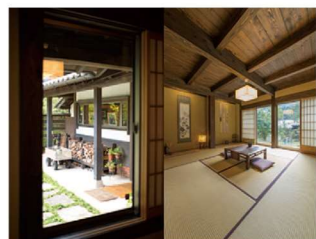


昔ながらの古民家には、洋風なものも受け入れる懐深い魅力がある。

ハウスランド社が手掛ける「風のくら」は、築140年ほどの古民家をリノベーションしたモデル住宅。躍動的で立派な梁と、木に包まれた癒しの空間が広がり、新築では表現できない「長い時の流れ」や「日本の侘び寂び」を感じ取ることができる。さらに、玄関先にはもともと土間スペースを活かし、タリア製のタイルを敷き詰め、壁にはスペイン産の西洋漆喰、インテリアにアイアン、シャンデリアや色ガラスなど、洋風のアクセントを随所に散りばめている。



(上) 緑豊かな景色を愛でられるビュワーウィンドウを配した和室。天井を少し高くして、張り紙を新しく張り替えたそう。シックな自然塗料が、いい味を醸し出している。(下) 豪華な屏風の古民家をリノベーション。和をベースに、さまざまな要素をバランス良く組み合わせることで、家の中が洗練された空間に！実際に見に行くと、いろいろな発見がもたらされるはず



広い玄関は風通しがいい。テラコッタ風のタイルや色ガラスで、和と洋の融合を実現

「スイスをはじめ、ヨーロッパの田舎にも風のくら」のような家屋があり、その土地の自然のものを材料にして、伝統技法で作られている。国は違え、家づくりの根っこ部分が共通しているのだから、これらと洋をミックスさせてもバランスが取れ、調和するのだ。実際に「風のくら」を覗いてみると一目瞭然。日本の古民家には、洋風のものを受け入れる「懐の深さ」があることがわかる。「こういった感覚をここで直に体験しながら、自然素材が与

える癒しや居心地の良さも味わってほしいですね」「三上さん、また「空間演出として」「重厚な太い梁や小屋裏などを開放し、建物構造など昔のありのままの姿を見せるのがポイント。そうすることで深みのある趣が家中に広がり、ロマン溢れる佇まいへとクラスアップしていくでしょう」と、風情ある旅館のような住まいを演出するためのコツを教えてくださいました。



新築でもリノベーションでも 木に包まれた癒しの空間、 “古民家スタイル”に。

福岡では珍しい、古民家のリノベーションモデル住宅「風のくら」。

地域に密着した主婦向けのイベントを開催したり、家具やコーディネートアイデアを共有したり。レトロな「和」と洒落た「洋」が調和する女性に人気の空間を覗いてきました。

築140年のモデル住宅でスタジオ「風のくら」



玄関からすぐの場所は、人々が集えるカフェ風の土間空間。アンティーク風のタイルやレンガを配し、まるで海外の住まいのよう

リビングから眺める、玄関先の土間風景にうっとり。「細かい部分まで職人さんの手仕事が行き届いた家は、見応えがあって飽きがない。良い意味でアンフォーマットだから、表情が豊かで味があるんです」。三上さんの言葉に納得！